

首都圏地震観測網 (MeSO-net) から見たスロースリップとプレート構造

Slow slip event and plate boundary observed by a dense seismic network (MeSo-net)

酒井 慎一 [1]; 笠原 敬司 [2]; 中川 茂樹 [3]; 鶴岡 弘 [4]; 佐々木 俊二 [5]; 平田 直 [6]; 木村 尚紀 [7]

Shin'ichi Sakai[1]; Keiji Kasahara[2]; Shigeki Nakagawa[3]; Hiroshi Tsuruoka[4]; Shunji Sasaki[5]; Naoshi Hirata[6]; Hisanori Kimura[7]

[1] 東大地震研; [2] 震研; [3] 東大地震研; [4] 東大地震研; [5] 東大・地震研; [6] 東大・地震研; [7] 防災科研

[1] E.R.I., Univ. of Tokyo; [2] ERI; [3] ERI, the Univ. of Tokyo; [4] ERI, Univ. of Tokyo; [5] ERI, Univ. of Tokyo; [6] ERI, Univ. Tokyo; [7] NIED

房総半島周辺ではスロースリップイベント (SSE) が約 5~7 年ごとに発生している。この SSE の発生により房総半島周辺では地殻変動が観測され、それと同時に周辺の地震活動度が高まる。2007 年 8 月にも同様の SSE が発生し、群発地震活動が観測された。この SSE は沈み込むフィリピン海プレートの上面で発生していると考えられるが、そのとき発生する群発地震活動は必ずしもプレート境界だけで起きるわけではない。この SSE と群発地震活動の関係を明らかにするため、精密な震源決定を行った。プレート内で発生する地震は、プレート境界面を通過する際に S 波から P 波に変換する変換波を生じさせることがある。今回の群発地震においても、房総半島で観測された波群の中に、変換波の特徴を示すものがあった。今回は、大都市大震災軽減化特別プロジェクトによって設置され、首都直下地震防災・減災特別プロジェクトに引き継がれた観測網 (MeSO-net) で捉えた波形を用いて、詳細な解析を行った。